令和６年度「知事と市町長の円卓対話」（四日市市）概要

１　対話市町　　四日市市（四日市市長　森（もり）　智広（ともひろ））
２　対話日時　　令和７年３月１８日（火）１４時４０分～１５時３０分
３　対話場所　　四日市公害と環境未来館　１階　研修・実習室
　　（四日市市安島１丁目３番１６号）
４　視察場所　　四日市市民公園、四日市公害と環境未来館
５　対話項目
（１）ＪＲ四日市駅前への大学設置に向けた三重県の参画について
（２）「夜間中学」及び「学びの多様化学校」の分校招致について

６　対話概要

対話項目（１）ＪＲ四日市駅前への大学設置に向けた三重県の参画について

（市長）

１つ目ですけども、ＪＲ四日市駅前の大学の設置に向けた、三重県の参画について、お願いしたいと思っております。中心市街地の再開発プロジェクトは、西側から順番に整備を進めていまして、ＪＲ四日市駅が１つのゴールになります。さらにその先には港があるので、将来的に港に繋がっていくわけですが、１つの中央通りで繋がっている空間としては、ＪＲ四日市駅までが 1 つの区切りとなってまいります。そういった中で、大学の設置をＪＲ四日市駅前でできないか検討を進めています。国においても、デジタル、グリーンなどの成長分野を牽引する、高度専門人材の育成に力を入れており、特に理系分野について、人材を育成していこうという大きな流れがあります。こういった流れにしっかりと乗っていきたいと思っています。

これも知事は十分わかっていただいていると思いますけども、三重県の大学の事情について、確認させていただきたいと思います。まず、三重県は、地域の 18 歳人口に対して、地元の大学の入学枠がどの程度あるのかを計る、大学収容力というのがあるんですけども、これが全国で最も低い状況です。要するに大学の定員数が少ないということですが、さらに、大学進学希望者に対する大学収容力を見ると、令和５年度の数値が、三重県は 40.5%で、これは全国ワーストワンです。ですから、三重県の大学が、全員三重県民を入れようとしても、半分以上が出てしまうという、そういう状況だということです。さらに、三重県の大学の分野について、特に、理工学部に注目をしていますが、三重県で理工学部というと、三重大学しかなく、三重大学を選択することでしか、三重県下では工学を学ぶことができない、また理学に関してはゼロ、こういった状況です。三重県の

定員枠数は、工学部は全国平均と比べて 30%ぐらいになっています。だから、学ぶ場所が全体的に少ないという状況があることを押さえたいと思います。

大学の設置をどうして進めているのかですが、若者の人口流出を抑えるというのもありますが、さまざまな観点から、必要性を感じており、特にこの四日市は、産業都市、工業都市として発展をしてきました。今、この四日市のまちが形成されている背景であるとか、税収が獲得できている状況を見ますと、産業が活況であるというのが、四日市の力の根源であると思っています。ですから、産業施策というのは、より一層、重要な施策になってきます。

今回の大学設置は、産業振興という側面も非常に大きいです。今まで産業振興というと、基本的に立地していただいた企業の投資に対して、お金の支援をするという財政的支援が主だと思います。全国的にそうですが、このお金だけの支援というのは限界があって、これから人口減少社会に突入していく中、様々な事業所で、人材獲得にかなり苦労されているという状況がわかってきました。財政的な支援さえ行えば企業が成長していくという時代ではなくなってきています。放っておいたら、労働人口が減っていくわけですから、地域の産業を担っていく人口も減っていきます。だから、この少子化の中で、なぜ大学なのかという議論はありますが、逆に、この少子化で、若者が減っていく時代だからこそ、しっかりと地元の産業を支えていける工学を学べる高等教育機関を四日市に置いて、学生を集めて、大学と企業がしっかりと手を結び、共同研究等含めて進めていきながら、そこで学んだ人々が高度な能力を有して、地域の企業を支えていく、地域の産業を担っていく１人になっていただけるサイクルを行政として作っていく必要があるのではないかと考えています。市が存続していくためにも、やはりこの人材確保、優秀な人材を四日市に集めてきて、四日市の産業を支えてもらう、メインの産業を支えてもらうという、そういう形づくりが非常に重要であると思っております。ですから、単に人口減少のために大学を作るという考えではなく、この地域にとってどういったリソースが必要かというところを考えた中で、やっぱり人材をしっかりと確保していくことが必要であるということから、この大学構想は始まっています。

大学設置の中で、どういった大学を設置していくのかということが肝になってくるわけですが、四日市市は、令和６年３月に基本構想を策定して、大きな方向性を示しました。令和６年度、大学設置の基本計画を策定しています。この基本計画の中で、設置主体であるとか、このキャンパスは都市型キャンパスですので、ビルになりますが、この建物の規模であるとか、配置であるとか、構成、こういった部分を今固めているところです。

本来であれば、令和７年３月末までを目標にしていましたが、関係機関との調整がずれ込んでおり、できる限り、令和７年度の早い段階で策定して全体像をお

示ししていきたいなと思っています。まだまだ、構想段階の議論ですが、知事にはこの流れをご理解していただければ幸いです。具体的にどのような大学を設置するかというところを今、基本計画の中で様々な関係者と協議をしています。ＪＲ四日市駅前に大学を設置しようとすると、大体１学年 350 人ぐらいの規模の大学が設置できそうだというのがわかってきております。その中で、有識者の見解を聞くと、理工系学部としては１学年 200 人程度の規模が必要という議論になっています。この 200 人をどうカバーしていくのかというところで、まず公立大学というのが１つあります。

もう１つは三重大学というのがあります。三重大学は、先日、本市の大学設置に向けた整備のスケジュールが２年後ろ倒しになったことで、これに合わせて、２年間意思決定を延期するという見解を示されましたが、これはまだ三重大学も検討中ということです。公立大学、三重大学、もしくは、第３のもの、いろいろ可能性はありますが、こういった枠組みで、１学年 200 人の定員を埋めていきたいと思っています。まだ三重大学の意向が明らかではないので、一旦は１学年最大 200 人の公立大学を作っていくということで進めていこうと思っています。

そういった中で、どういった大学を作るのかというと、北勢地域ならではですが、素材と半導体、そして、情報系の学問ですね。これが連携するような理工系学部を作っていくということで、今、基本計画の策定に向けて進めているところです。

やはり企業と密接した大学にしたいと思っているので、大学に対する希望や期待について、様々な企業にアンケート調査しております。四日市の企業だけでなく、他の市町の企業にも、各市町を通じて、需要のニーズ調査も行っているところです。

そういった中で、公立大学というふうな表現をしていますが、様々な形の公立大学があると思います。市単独という選択肢もありますが、みんなで一緒にこの地域を盛り上げていく、力一杯事業を進めていくという観点から、少しでも三重県に参画をお願いし、協力をお願いしたいということです。まだ基本計画が定まっていませんが、基本計画が策定でき次第、また改めてお願いに行かせていただき、少しでも三重県のご協力を賜りたいと思っています。

（知事）

市長もご存じの通り、三重県では、県立大学構想がありまして、それを２年前に断念する決定をさせていただいたわけであります。例えば、ある県の県立大学では、２割しか県内に残らない、８割の方が県外へ出ていってしまう。大きな産業が集積しているところに、県のお金で学んだ人たちが取られてしまうという

のが現状です。

従って、県立大学は難しいという結論を出しましたが、森市長がおっしゃる話はこれとは違って、企業と直結するということです。これは１つの考え方だと思います。子どもも減ってきていて大学だけでは存立しえない。そうすると、企業に来てもらい、そこで、企業と連接した形で大学を作って、そこで学ぶ子に奨学金を企業から出してもらう、四日市市から出してもらう、あるいは県も協力することもあるかもしれません。四日市市は、三重県にとっての生命線で、大事な場所です。ここが発展するかどうかが三重県の発展と直結しており、従ってその将来の発展も考えると市長の考えもよくわかります。三重県を支える産業は、１つはコンビナート、もう１つは自動車です。いずれも大卒の人間が必要ですが、なかなか就職をしてくれません。先ほど話した三重大学の工学部は、県内の就職率はわずか 12%です。これは国立大学なので、県がどうこう言うわけにはいきませんが、県内の企業ともっと結びつきを作ったら、県内に就職してくれる可能性は高いと思います。

これからは半導体です。半導体は自動車、コンビナートと同等に必要であり、人を中心に半導体は組み立てられています。人がいないと半導体産業が成り立たない状況なので、それの対応として、理工系学部を作っていきたいというのはよくわかります。四日市にはキオクシアがありますし、それから桑名にはＵＳＪＣもありますので、学生時代から、そういった企業と一緒になってやっていくことが必要だと思います。人口減少対策ということにおいても、非常に大事なものだというふうに考えています。

もう１つ大事な視点は、ＪＲ四日市駅前という視点だと思います。先ほどは大学の話だけされましたが、前回の円卓対話で、四日市港と並んでもう１つ大きな話題になったのが、中央通りの再開発です。四日市は力があるので進めていただきたいと思いますし、県も最大限協力させていただきますと、そのとき申し上げました。パリの都市計画でいうと、新凱旋門からルーブル宮まで開発をしています。同じようなイメージを私は四日市に持っています。これをやることによって、多くの人が四日市に移住して来てもらうというのが大事です。この中央通りがキャンパスになるというはその通りだと思いますし、駅の向こう側の港には若い人もよく行きます。ビルだけではなく、港もありますし、駅前のにぎわいもあります。さらに、車で行ったらすぐに大きなグラウンドもあり、全然遜色ないところだと思います。先ほど申し上げたように、企業と一体になってやっていくことができれば、無駄な大学ではないと思います。

三重大学もこちらへ移転してこられて、公立大学もできるとなれば、教育の一大集積地がここにできるというふうに期待しているところです。県も最大限の協力をさせていただきたいと思っています。参画と言われると、その形が見えて

こないと、判断が難しく、どんな形で県が協力させていただけるかはまだわかりません。四日市市が核になって、企業と話をしていただいており、それから、今ある大学とも話をしていただいて、皆さんが納得する形で作れるかというのが大事だと思います。それをある程度形を作っていただいて、県としてどこで協力させていただくかを決めさせていただければありがたいと思います。

これからどんどん人口が減っていきます。これも地域間競争です。愛知県、岐阜県に負けるなみたいなことを言われる方もいましたが、そういうイメージだけの話ではなく、若い人たちに三重県に残っていただいて、あるいは三重県に来ていただいて、定着していただくのが大事なので、そういう意味での地域間競争はもう既に起こり始めています。それで、魅力的なまちをつくるというのを四日市市は既に着手していただいているので、学生さんが定住し、定着しやすい、そういうところもぜひお願いしたいと思っております。

（市長）

ハード面については、これもまだ計画中ですが、ＪＲ四日市駅前は、一般に解放された空間にしていこうということで、商業施設を入れてもいいなと思っています。これもまだまだ粗いデザインですが、１号線からＪＲ四日市駅まで、中央通りを半分使って、600 メートルの中央通り公園を作り、この公園と大学が繋がります。広大なキャンパスというのはなかなか作れませんが、こういった街並みがキャンパスになり、今後、自由通路を港に通していくという構想もありますので、これができれば、四日市港にも進んでいけるということになります。西側には中央通り公園、東側には海を望む、こういった大学ができてくるわけです。壮大ですが、将来の地域のことを考えると、今しっかりとした枠組みを作っておく必要があるということで、この大学構想を実現させていきたいと思っております。

まだ基本計画策定中ですので、策定できましたら、また再度お伝えしていきたいと思っています。

まちづくりを考えていく中で、人口減少はもう避けて通れませんが、四日市も求心力を高めて、多くの方に来ていただきたいという思いはあります。考え方も変えていく必要があると思っています。四日市は四日市だけという考え方ではなく、広域的に影響を与えていけるような四日市をつくっていくことによって、関係者を増やしていき、自分のエリアだけで物事を完結せずに広域を活性化させていけるまちを目指して、まちづくりをしていきたいと思います。

大学は１つの象徴であり、こういった取組をこれからも頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

対話項目（２）「夜間中学」及び「学びの多様化学校」の分校招致について

（市長）

令和７年度から、県立のみえ四葉ヶ咲中学校が開校するということで、大変期待をしています。みえ四葉ヶ咲中学校ですが、夜間中学と学びの多様化学校、この２つの要素を備えているということで、全国的にも珍しい学校であり、全国の先進事例になるのではないかと私は思っています。目指す学校の姿が、一人ひとりの願いが芽生える、伸びる、広がる学校ということで、年齢や国籍、これまでの経験にかかわらず誰もが、学びの喜びを実感できる、こういった学校になっていくと推察するところでございます。

今回の議論を２つに分けて話をしていきたいと思います。まず先ほど話したように、夜間中学と学びの多様化学校という２つの要素があります。これをまず、分けてお話していきたいと思います。

まず、夜間中学の件ですが、外国の方が、日本語を学ぶ機会の１つとしても、大きな需要があります。四日市の外国人市民数ですが、現在約１万 2000 人が、市内にいらっしゃいます。令和３年９月、令和６年９月を比べると、2300 人増加しており、非常に増えています。ベトナム、ネパール、インドネシア、スリランカの方が顕著に増えているという状況です。一方で、未就学者、最終卒業学校が小学校の方の人数が、三重県は１万 6000 人ほどいるという状況です。こういった方々のニーズに応える夜間中学になりますが、四日市市としても、外国の方がもう増えていて、多文化共生の観点からも、こういった方々が日本コミュニティに入っていただけるかということが大きな課題になっています。夜間中学はその課題解決に非常に有効な手段であると感じています。

一方で、学びの多様化学校ですが、これは不登校の生徒に何とか対応していきたいという学校です。四日市市においても、不登校児童生徒数は、年々増えています。令和５年度も、900 人を超える不登校児童生徒がいるという現状です。不登校発生率は、四日市の伸びが顕著でありまして、令和５年の数値は小学校、中学校ともに、三重県、全国を大きく上回っており、さまざまな選択がある中で課題であると認識をしています。欠席日数別の登校児童生徒等の分布を見ると、基本的に 180 日ほぼ欠席している状態の生徒が年々増えているのが事実です。市としても、学齢期の子どもたちの対応ということで、市が前面に立って不登校対策をしていかなければいけないということで、相当な取組を進めています。

四日市市は登校サポートセンターを設けており、学校外でケアをしていくという施設もありますし、学校内でふれあい教室という、先生を配置して、各クラスに入れない子どもたちに授業するというクラスも、令和７年度、中学校で全校配置が完了します。今小学校でも増えていますので、小学校でも、ふれあい教室を設置していくためのモデル校の設置をしていきます。不登校のレベルによっ

て、対応が異なっていきます。先ほど話したように校内ふれあい教室は、学校に行けるけど教室には行けない生徒にしっかりと対応していくものです。一方、登校サポートセンターは、少しレベルが上がる感じで、学校に行きづらい生徒に対応していこうというものです。令和７年度から、メタバース空間を使ったオンライン支援も正式に始めていこうと思っており、これは 180 日以上ほぼ欠席している状態の生徒を対象にしていきます。

こういった中で、このみえ四葉ヶ咲中学校では、全体をカバーするようなものになると期待しています。令和７年４月の開校に合わせて、本市から不登校状態にある生徒が学びの多様化学校のコースへの入学の希望届を提出しています。今回のみえ四葉ヶ咲中学校の開校に先立ちまして、三重県で令和６年４月から５月にかけて、北勢地域の児童生徒保護者や、在住在勤者などを対象にニーズ調査を実施されています。みえ四葉ヶ咲中学校で学んでみたいという声が、子どもたち、また保護者の方々、大人の方も含めてありますが、津市は遠いので自宅から通える場所であれば学んでみたいという子どもたちが、実際に津まで行ってという数よりも３倍超という状況にあるわけです。津にできてもなかなか行けないという声が圧倒的に多いという状況です。

三重県で、三重夜間学級体験教室、「まなみえ」という取組を、令和３年度から実施をしていただいております。津と四日市の２会場で実施していただいていますが、規模的には、大きくは変わらない状況であると思っています。つまり、津と同様のニーズがあるということを理解していただけると思っています。

ここからが本題ですが、先ほど申し上げたように、このみえ四葉ヶ咲中学校に対する期待は全県的に大きいものがあります。一方で、北勢地域にもたくさんのニーズがある中で、津というロケーションが課題となって、なかなか通えない子どもたち、また大人の方々もみえます。このみえ四葉ヶ咲中学校の分校、もしくは分教室を、四日市を中心とした北勢地域に設けていただきたいと思っています。北勢地域の中核都市として、公共交通機関も整っておりますので、通いの面からすれば、近隣の自治体から通いやすい状況にあります。

また、現在「まなみえ」は、北星高校に設置していただいていますが、既存の教育資源を有効活用できるということから、より効率的な運営体制を構築できる可能性が高いと考えています。視野を広げていただいて、北勢地域での分校分室の設置を前向きにご検討いただきたいということをお願い申し上げます。

（知事）

このみえ四葉ヶ咲中学校ですが、非常に関心があって、ここで学んでみたいという声も非常にございます。私も開校式には行こうと思っております。

平成 29 年にできました教育機会確保法というのがありまして、各都道府県に

夜間中学を少なくとも１校設置をしなさいということを国から言われています。基本的に小学校、中学校に作っていただいて、この教育に責任を持っていただくのは、基礎自治体の市や町ですが、三重県にも少なくとも１校は作りなさいということで、県が実施し、専門的な見地、あるいはそのモデル校としての役割というのもみえ四葉ヶ咲中学校に持ってもらおうと考えています。国内では、設置する予定も含め 14 の県が設置を進めており、三重県は早いタイミングで作るということになります。

北勢に１校、伊賀に１校、そして、伊勢志摩に１校、東紀州に１校できたらいいですが、これは施設の維持も大変です。人件費は県で持つということになりますが、なかなか大変なこともあり、まずは１校設置して、様子を見ていこうというのが我々の今の考え方です。現に他の県を見てみましても、大体三重県と同じような人口 200 万人弱のところで、県が１校設置です。複数設置しているのは、静岡県と愛知県ですが、静岡県は２つ、そして愛知県は４つ設置しています。静岡県は人口 340 万人です。三重県のほぼ倍で２校設置です。そして愛知県は、650 万人の人口を抱えており４校設置です。１校当たり大体、150 万人ぐらい、静岡県 180 万人、愛知県で 150 万人ですから、三重県 170 万人で１校というのとほぼ同じ数字です。だいたいそのぐらいが、財政力という意味で、できる限界の部分であると思います。

ただ、和歌山県は、２つ作る予定です。和歌山県が１つ、和歌山市が１つ作ろうとしています。今、津に作っていますが、三重県は南北に長く、200 キロあるので、南の人が夜間中学で学びたいと思うと、四日市はちょっと遠いかなと思います。津から伊勢なら、なんとかという話があるかもしれませんし、四日市から津なら、なんとかということもあるかもしれません。市で作っていただけると、私どもも最大限の協力をさせていただきたいというふうに思っております。協力をさせていただくためにも、みえ四葉ヶ咲中学校で知見を積み重ねていきたいと思っています。まだ三重県内では、市がやりましょうと言っていただいているところはありません。もし仮にそういう話が出てきたら、どういう形で我々がご協力をさせていただけるかということも、ご相談をさせていただきたいと思っているところでございます。

それと、学びの多様化学校も大事でありまして、今不登校の人がどんどん増えてきています。四日市は人口が多いので、不登校になられる方もそれだけ多いわけですし、それに対して、学校の中にセンターを作っていただき、それから県ではそのセンターへの支援も令和７年度から始めます。それからフリースクールへの支援は２年前からやり始めているところであります。令和６年度から始めていることなので、これも強化していきたいと思っていますが、学びの多様化学校は基本、義務教育ですから、市町でもぜひお願いしたいと思うとともに、私ど

も県としても支援をさせていただきたいと考えているところでございます。

（市長）
　知事ありがとうございました。知事がおっしゃることは私もよく理解できるので、なかなかすぐにとはいかないのもわかっております。２つに分けて考えていきたいと思っています。
　まず夜間中学についてですが、津と四日市の２会場で「まなみえ」をやっていただいておりますが、四日市の方が、外国人割合が高くなっており、多文化共生の部分で、非常にニーズが高いと思っています。外国人の方を対象にすると、１自治体完結っていうのはなかなか難しく、やっぱり鈴鹿市とか桑名市とかと一緒に何かやっていく必要がある取組だと思っています。居住地と就労地が違うっていうケースが結構ありますので、広域的な取組が重要なのかなと私自身は思います。
　そこで、すぐ作って欲しいというわけではないですが、今、「まなみえ」をやっていただいているので、これを継続していただきたいということと、可能であれば、週２日など少しでも拡充して欲しいと思っています。必ずしも夜間中学の機能が100%なくても、こういう機会が北勢地域にあるということは有用でありますし、学べるという部分において、外国人の方も非常にありがたい教室だと思いますので、ぜひこれはご検討いただきたいというのがお願いです。
　もう１つですが、学びの多様化です。小中学生が基本ですが、我々も不登校に対し、子どもたちに対する責務っていうのは非常に一義的になっているというのはあります。ですから、四日市市として設置をしていくというのは、これはもう県の取組がなければ何かしていかなければいけないという思いがありますので、新しい動きを出して行くべきであると思っているところですが、学びの多様化学校を設置している他の自治体を見ると、例えば東京都の大田区とか、岐阜県の岐阜市ですが、学びの多様化学校を設置していますが、かなり倍率が高くてその自治体の子どもしか入れず、自治体の子どもであっても入れないという、そういう人気な状況です。だから、四日市市が設置したとしても、他の自治体の子どもは受け入れることは難しいと思いますし、北勢地域としてこの課題をどういうふうに整理していくのかというのは、県とまたお話をさせていただく中で、形を模索していきたいと思っております。一定の責任は、しっかり果たしていきたいと思っていますので、ぜひ、その際も、ご協力というか相談に乗っていただければと思います。

（知事）
　ありがとうございました。お時間が超過していますので、私どもから簡単に申

し上げたいと思います。

　他市と一緒に夜間中学をやっていかないといけない、あるいは他市の人も受け入れないといけない。その通りだと思います。一部事務組合というやり方はありますが、それだと、話が複雑になってくるので、例えば、他の市の方が通ってこられるなら、その市との間で負担金をどうやって取るかという話になってくると思います。県が間に入って調整をさせていただくことも考えていきたいと思います。

　それから、せっかく市長から、お話をいただきました、「まなみえ」のあり方につきましても引き続き、県として四日市市とよく相談をさせていただきたいと思っています。

　それから、学びの多様化学校につきましては、これも私どもが持っている知見を、ぜひ四日市市と相談しながら、ご活用いただきたいと思っています。今日は有意義なご提案をいただきました。本当にありがとうございます。